

令和7年度
すくわくプログラム活動報告書

(実施対象：3～5歳児クラス)

モニカ都立大園

M  nica

テーマ

自然とわたし

設定理由

- 自然の変化（草花の色、成長など）に興味を持っている子がいる
- 園庭に様々な季節の自然物がある
- それを使って自由に遊ぶことが出来る

対象クラス

3～5歳児クラス・39名

活動のねらい

自然との共感的な関係性を育む

キーワード

「これはなんだろう？」
「何か変わった？」
「どんな気持ち？」
「これについて教えてくれる？」

活動期間

令和7年4月～6月

活動回数

計3回

活動①

春の植物を物語る

準備物

スタンドライト(1) | 机(1) | 花材(縦長1・丸2) | シリンダーベース | フラワーベース | 水槽
ドライフラワー | 苔 | マジックアマリリス(1) | 腐葉土 | パーライト | 石 | 昆虫フィギア
円形アクリル板(5) | 拡大鏡(1) | 鏡(1) | LED電球(1) | 切り株玩具

環境構成

1歳児クラス前の廊下、3~4人ずつ、保育者1人



活動②

園庭の植物を物語る

準備物

昆虫フィギア | 円形アクリル板(1) | 鏡(2) | 切り株玩具

環境構成

園庭、2~3人ずつ、保育者1人



活動③

園庭の植物と虫の世界を描く

準備物

カメラ | 黒ペン | 絵の具 | 筆 | 雑巾 | 切り株玩具 | 円形アクリル(1) | 虫のフィギュア
製作マット

環境構成

園庭、2人ずつ、保育者1人、4・5歳クラス





桜を活けたり、押し花にしたり、花びらを水に浮かべたり、春の植物を多様にデザインした。また拡大鏡や鏡を置くことで、普段見ている世界より細かな部分や違った角度で観察することが出来、様々な方法で春を感じることが出来るように設定。さらに春の虫のフィギュアを置くことで自分の気持ちを投影できる工夫をした。



「暖くなると虫がたくさん出てくるんだよ」

「奥に虫のお家があるよ」

「ホテルもあるよ 寝てるから静かにね」

「アリさんはカマキリさんに食べられちゃうから石の下に隠れるね」



「石の下でしばらく休もう」

「桜の水飲みに来たよ。暖かいから喉が渴いたね」

「私はちょうちょ。木の枝にとまるわ」

「花の蜜を吸おうかしら」

春。植物と虫。その出会いが子どもたちの想像力・創造力を働かせ、物語が紡がれていった。だんだんと友だちとのイメージが重なり合い、物語は進む。お互いの考えや気づきを受け止め合いながら。桜はただ綺麗な存在であるだけではない、虫にとって大切な場所。虫の暮らしには必ず植物と一緒にいる。そんな関係性を感じられるようなデザインを心がけ、子どもたちのつぶやきを丁寧に聴いていきたい。



前回セットアップで使用した玩具を園庭に持っていき、本物と玩具の融合を楽しみながら活動を行った。

園庭の広々とした環境、凹凸のある斜面や風、花の香り等、戸外の活動ならではの気付きを次の発想に展開させながら伸び伸び物語る。



「てんとう虫は高いところが好きなんだよ
だから今は葉っぱで休憩中」

「蝶々は花の蜜吸いたいかな」



「ここは虫さんたちの公園なの」

「(本物の)だんごむしもこの滑り台すべりに来たのかな」

「いいよ 一緒に遊ぼうよ みんないたら楽しいよね」

本来の虫の姿を想像し、“外の環境でどう過ごしているか”考えを巡らせながら遊ぶ姿があった。香りや風を感じながら。すると“土に虫の足跡をつけてみたい”“風が吹いてきたからお家に戻ろう”など自然環境下で行ったからこそ生まれる創造性が生まれた。また本物の虫と玩具の虫を別物として扱うのではなく、同じ環境で遊ぶ友だちとしてそこに共存しようとする姿があった。単なる物体以上に、自然と関わる媒体として虫の玩具が機能していた。

これからも子どもの主体的な遊びを支える柔軟な環境設定と、玩具の多様な使い方への理解を深めていきたい。

活動③ 園庭の植物と虫の世界を描く

R7年6月



「ここを撮りたいな だって虫たちがお昼寝してるから」
「みんな仲良しでしょ」



活動②で行った環境を子ども自身で写真に納め、それを見ながら更に創造性を加えて描く活動を行った。



「蝶々と蜂にはお花が必要なの」

「絵の具を混ぜたらきれいな緑が出来たよ。
この色の葉っぱならきっと虫たちも嬉しいだろうな」

自分で撮った写真をもとに、細い黒いペンと絵の具で描く活動を行った。写真を撮ったときのことを思い出しながら、友だちや保育者との対話が盛り上がる。筆が進むうちに、虫にとって更に住み心地の良い環境にしようと花や草などを追加して描く子どももいた。

虫の気持ち、植物の気持ち・・・それらを想像する中で、自らの創造性が伸び伸びと描かれていく。この活動を通して、子どもたちと虫・植物との共感的な関係性が育まれ、豊かな表現へと繋がることを願う。

使用物

シリンダーベース | ドライフラワー | シノブゴケ | カモジゴケ | 円形アクリル板 | フラワーベース | 水槽 | スタンドライト | マジックアマリリス | 腐葉土 | パーライト | 昆虫フィギュア
拡大鏡 | LED電球

テーマ：自然とわたし

全体の振り返り

虫と植物の関係性。そこに“わたし”も一緒にいる。物語る子どもたちの姿を見てそんなことを感じた。虫の気持ちや植物の気持ちを想像する、擬人化したり代弁したり。子どもたちは物語を描いていたのかもしれない。「もし〇〇だったら～」「〇〇に見える？」と大人が提案することで更に奥深く世界が広がるのだとしたら、保育士の役割はとても重要である。ねらいからずれずにどのような言葉かけや問いが相応しいのかをこれからも学んでいきたい。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋1-9-5 KDX新橋駅前ビル 3F
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ都立大園

〒152-0034
東京都目黒区緑が丘1-2-14
TEL:03-5726-9145
FAX:03-5726-9146